

2009年度 早稲田大学 国際教養学部

日本史 解答例

I 中世・近世の農業 <やや難>

問1 二毛作 問2 イ・オ 問3 オ 問4 対馬 問5 ウ
問6 オ 問7 イ 問8 ア 問9 エ 問10 ウ

問6・8が難しかった。といっても選択問題なので2択までには絞り込みたい。後はどちらかが正解していれば良かったと考えよう。問3は難しそうに見えるが、選択肢のうちから選べばよいので困ることはなかった。

II 中世・近世の大坂 <やや易>

問1 ア 問2 イ 問3 オ 問4 ウ 問5 エ
問6 オ 問7 エ 問8 エ 問9 オ 問10 ア

問1は日明貿易の拠点と言えば堺と博多が有名だが、そこをあえて外したところがやや難しかっただろうか。薩摩の坊津は明や琉球との貿易の拠点であった。他には問7に悩まされただろう。

III 近代の政治・社会・文化 <標準>

問1 ウ 問2 イ 問3 ウ 問4 オ 問5 自然主義 問6 戊申詔書
問7 大逆 問8 高山樗牛 問9 ウ・オ 問10 石川啄木

正誤問題の誤り箇所が細かくて見つけるのに苦しむが、なんとかギリギリ見破れるレベルであった。普通の学習レベルでは太刀打ちできないだろうが、予備校での早稲田対策講座では扱っている内容ばかりなのである。正誤問題を数多くこなすとともに、早大入試の傾向に合わせて一段上の学習をしておきたい。

IV 明治時代の政治 <やや難>

問1 ウ 問2 オ 問3 大日本帝国憲法 問4 ウ
問5 ア・エ 問6 ウ 問7 イ 問8 オ 問9 イ

国際教養学部で例年見られる英文の史料問題。今回は有名史料を英文化したものはなかったため、しっかりとした読解が必要だった。問1・2はルース・ベネディ

クトの『菊と刀』を知っていなければどうにも解けないが、他の問題は普通の学習で正解できる。

講評

全体的に本腰を入れて早稲田対策をしていた人が報われる問題レベルであった。それができていなかった人は振り落とされただろう。本学部特有の英文史料は、普通に日本語の史料問題に慣れておくことで対応できる。英文自体はこの学部を志望する受験生なら普通に読解できるだろう。何しろ英語で授業を行うという学部なのだから。